

自由民主党所属  
西宮市議会議員

# 田中まさたけ

正 剛



## 市政・市議会報告

### 「納めた税金がどのように使われているのか」 —平成 26 年度決算

私が初当選した12年前、財政破たんが危惧されるほどに危機的な財政状況にありました。ですので私は、地道に政策を提言し、市は財政改革に取り組み、今の財政状況があります。しかし、先送りにされてきた課題が山積し、近い将来に負担が増大する可能性が高くなっています。次世代の負担を軽減するためにも、まずは現状を知り、今やっておくべき政策を考えたいと思います。

## 西宮市の財政状況

### 福祉に要する費用は、12年前の約2倍に増大しています。

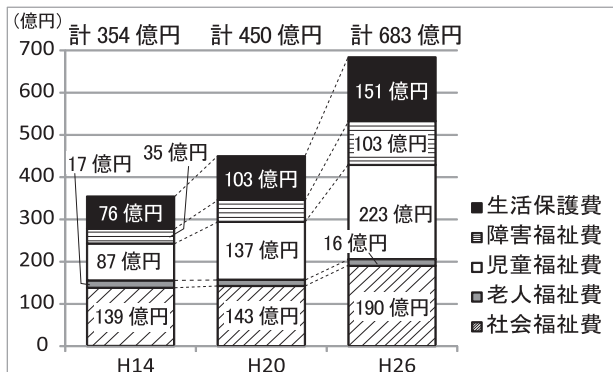
平成26年度の一般会計決算は、4億8000万円の黒字となり、借金残高は1540億円とピーク時の半分、10年前にゼロになった貯金は216億円まで増えました。一方で、福祉に要する費用(民生費)は、平成14年度決算と比較すると約2倍となり、全体に占める割合も40%になっています(中面の図参照)。その主な要因は、子ども手当や認可保育所の増加の影響などで、児童福祉費が約136億円(約2.6倍)増加、医療費助成の拡充などで、社会福祉費が51億円増加、生活保護費は倍増しました。

今後、高齢化の進展により、この民生費がますます増加することが見込まれ、多額の財源のみならず、様々な福祉事業を担う「人」が必要となります。子供が増えれば児童福祉費は増しますが、それ以上に経済効果も期待でき、まちも活性化することから、少子化対策は、西宮が重点的に取り組むべき

#### 課題なのです。

今の西宮市政は、待機児童対策を筆頭に目先の課題解決すら覚束ない状況に陥り、将来像も描けていません。ですので、西宮の将来をつくるために、「提案する政治」「実現する政治」をモットーに、将来を見据えた政策を提言し続けています。

#### ■ 民生費（福祉関連経費）の推移



# 交通政策

## 少子高齢社会における交通政策は、文教住宅都市に欠かさない政策。特に、バス交通の利便性の向上は急務です。

今年度は、建設常任委員会を担当していますので、主に一般会計決算のうち、「土木費」を中心に、その事業の成果や今後の取り組みについて、議論し、政策を提言しました。

### ■バス交通の利便性の向上

山口地域の交通の利便性向上のため、さくらやまなみバスが運行され(平成26年度事業費は約6700万円)、生瀬地域では、今年度から住民主導によるコミュニティバスの本格運行が始まりました。

南部地域においても、高齢化が進む中、バス交通の利便性を向上し、外出しやすい環境を整備する必要があります。これまで、民間バス事業者に対して、バス停の上屋設置やノンステップバス導入などのため、補助金が支給されてきました(平成26年度211万円)。しかし、利用者の増減など、本来求めるべき効果を成果として把握できておらず、決算委員会建設分科会で、そうしたやりっ放しのお役所仕事を改めるよう指摘しました。そして、今後は、これらの補助に加えて、バス路線の見直しや基幹路線の増便など、利便性向上に向けて、民間バス事業者と協議を進めるべきと提言しました。また、住宅地をきめ細かに回ることが可能なコミュニティバスや、利用者の呼出しに応じて適宜ルートを変えて運行できるデマンドバスの導入に向けても、調査を進めます。

### ■阪急夙川駅前の渋滞・混雑緩和対策

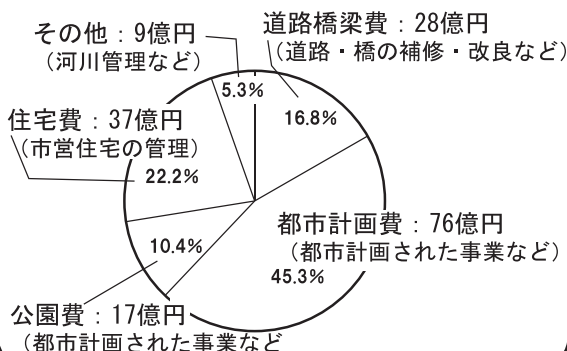
近年わずか10年の間に、山手幹線の全線開通、JRさくら夙川駅の開業、夙川駅への特急停車、さくらやまなみバスの乗入れ、周辺地域の人口増など、阪急夙川駅の周辺の交通環境は激変し、大変混雑するようになりました。現状の改善には、都市計画道路「大浜老松線(雲井橋通り)」など南北道路の整備による交通量の分散化も含めて、都市計画による抜本的な対策が必要であると決算分科会で指摘しました。

一方で、財政面では、道路橋梁費は約28億円となっていますが、老朽化対策経費が今後さらに増大する可能性を秘めています。また、今後の高齢化・人口減少による自動車交通の変化も想定しなければなりません。今こそまさに、人口ビジョンに基づいた交通政策が急務なのです。将来の自動車交通量や財源を算出し、必要な道路網や安全対策についてゼロベースで検討したうえで、道路整備を進めるべきです。

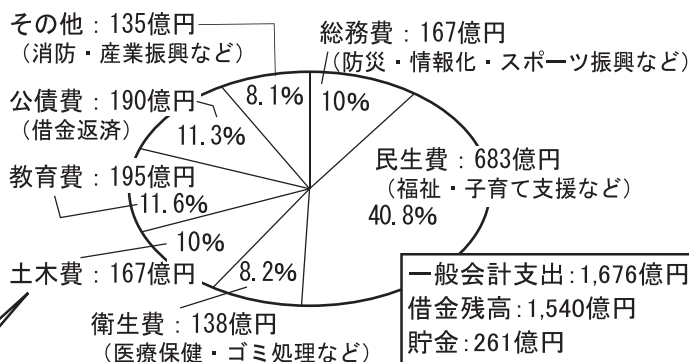
### ■その他決算分科会で取り上げた項目

- ・青峰連絡道の安全性の確保
- ・西田公園北側の東西道路(市道西第706号)の歩行者の安全対策の進捗
- ・阪神淡路大震災時の大規模な土地移動に関する市の対応
- ・公園での規制緩和と防犯対策 など

### ■平成26年度決算のうち土木費の内訳



### ■平成26年度決算 一般会計支出の内訳



# 公共インフラ管理の適正化～アセットマネジメントの導入

## 公共施設を次世代にとっての「負の遺産」としないために。

### ■これまでの提言と結果

#### ●公共施設マネジメントの導入

平成18年6月議会で初めて、私は社会インフラの場当たりの維持管理、再整備の実施体制を改善するべく、市有全資産の状況把握とアセットマネジメントの導入を提案しました。その後も、本会議で再三追及し、平成23年8月ようやく「公共施設白書」が公表され、さらに1年後に「公共施設マネジメントのための基本的な方針」が示されました。また平成24年3月に、教育委員会も「学校施設の修繕及び改築における基本的な考え方」の中で、修繕・改築に必要な財源を明らかにしました。そして、その将来の財源確保のために、当分の間、毎年最低6億円ずつ貯金することを平成26年9月に決めました。

#### ●道路の維持管理

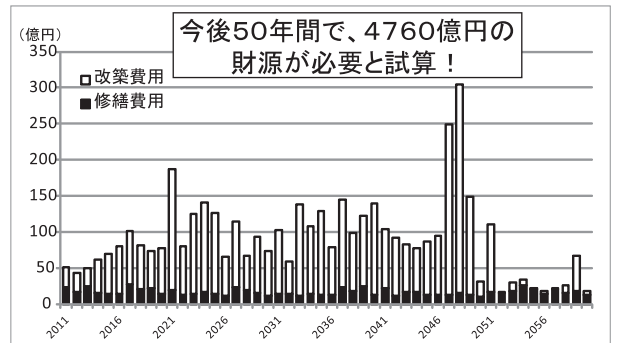
道路施設の管理は、陥没事故など市民の安全に関わる重要事項です。平成20年12月議会で、舗装の改修が、およそ10年に1度のペースでしか行われておらず、現在の10倍以上の年間費用が必要となる可能性を指摘しました。そして、道路アセットマネジメント計画の策定によって、補修・改良にかかる必要財源を明示し、一層の補修財源を確保するよう提言しています。

#### ●公園の維持管理

初当選直後の一般質問(平成15年6月議会)で、公園の維持管理体制の問題点を指摘して以来、適切な維持管理を求めてきました。平成21年から、3年に1度のペースで遊具の安全点検が行われ、順次老朽遊具が更新される体制が敷かれました。

現在、建築物のみならず、道路・橋梁や水道・下水道施設、ゴミ処理場などの適切な管理を目的として、「公共施設等総合管理計画」の策定が進められ、政策が前進しつつあります。今後も、公共施設やインフラの維持管理が将来世代の余分な重荷とならないよう、必要なインフラを算出し、適正管理のための財源を確保するべく、財政改革をさらに進めなければなりません。

#### ■今後50年間で必要となる修繕・改築財源



平成23年発行 西宮市公共施設白書より

## 市政報告・意見交換会を随時開催中!

1期目の任期中はただ市役所と向き合って財政改革、市役所改革に没頭してきました。

2期目から市政報告の出前を始め、たどり着いた答えはやはり、「市民との対話なくして、真の政策なし」。

より多くの対話の機会を持つために、3期目から、市政報告兼意見交換会を開催し始めました。これからも市内各所で随時開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

すべては、未来に誇れる西宮をともにつくるために。



日程、会場等の詳細は、  
田中事務所までお問い合わせください。

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



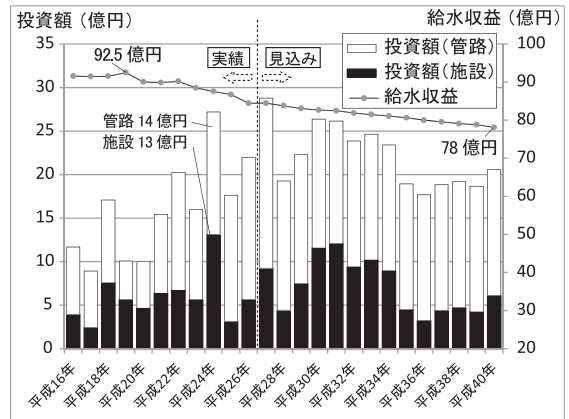
## 人口減少時代の水道事業のあり方の検討が急務

西宮市では、六甲山以南地域への給水量の9割以上を、阪神水道企業団(以降、阪水)からの受水でまかっています。阪水とは、神戸、尼崎、西宮、芦屋を構成市として設備投資し、淀川から取水・浄水し、各市が決められた水量を購入しています。その単価は、61.96円/m<sup>3</sup>となっており、市が浄水するよりも安価となっています。しかし、**阪水は、施設の耐震化や老朽化、電気代の値上げによる大型ポンプなどの動力費の増加により、厳しい経営を強いられています。また、阪水でも、重点的に災害対策に取り組まれています。施設規模が大きく、大規模災害時には復旧が大幅に遅れることも想定して、市は、自己水源によってバックアップ機能を備えておく必要があります。**

その西宮市の水道事業は、給水人口が増加しながらも、節水機器の普及により給水量が減少する一方で、水道管や圧送ポンプなど維持すべき設備を柔軟に減らすことはできないため、経費を大幅に削減することが難しく、収益は悪化しています。

私は、平成21年6月議会で、水道管や浄水場の老朽化・耐震化対策などで多額の費用が必要になることを指摘し、水道料金への影響を質問しました。当時は、平成30年度までは料金値上げをせずに経営できると回答していました。**しかし、市水道局は、今後の投資財源が確保できていないとして、平成28年度からの料金改訂の可能性を示唆しています。**まずは、正しい情報提供を求め、人口減少時代の水道事業のあり方について、大至急議会で議論し、結論を出す必要があります。

### ■今後の給水収益と設備投資の見込み



## 約束のかたち：「市政・市議会報告」の発行の継続

過去発行分のチラシも是非ご覧ください！ご連絡頂きましたらお届け致します。



○第43号 「西宮が魅力ある文教住宅都市であり続けるために。」

4期目最初の議会において、西宮の魅力の維持・向上に関する政策提言をしました。

・掲載内容：少子化対策 / スポーツ推進 / 防犯対策 / カラス・猫対策 / 交通政策など

## 事務所を移転しました

ご意見・ご要望は、

以下の連絡先までお願い致します。

〒662-0854 西宮市榎塚町3-4

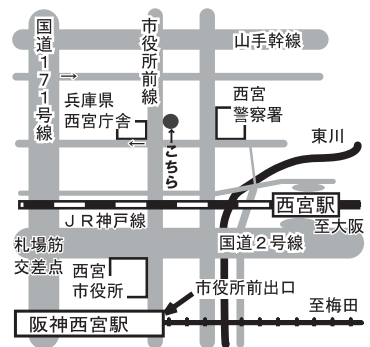
西宮グロリービル304号

TEL : 0798-22-5172

FAX : 0798-22-6172

E-mail ■ nishinomiyama@masatake.jp

URL ■ http://www.masatake.jp



発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ / 大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業 / 元市会議員事務所にて4年間勤務 / 平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選 (27歳)

■政党:自由民主党 ■現在の担当常任委員会:建設常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)、副議長(3期4年目)